

■効果の見える治水事業  
高知県における地域防災力の向上を目指した取り組み

「こども防災キャンプ」



高知県土木部防災砂防課長 加藤 仁志

高知県においては、土砂災害危険箇所が約18,000箇所あり、全国第7番目の数之多さとなっています。

そこで本県では、土砂災害からの犠牲者ゼロを目指す取り組みを『Missionゼロプロジェクト』と名付け、ハード対策・ソフト対策が一体となり、土砂災害を防止し、早期・安全な避難を実現する取り組みを重点的に行っています。

ソフト対策については、土砂災害警戒区域の指定を促進するとともに、土砂災害に関する防災学習会の開催や、テレビ・ラジオ等マスコミを通じた広域的な啓発活動を継続的に行っています。中でも特に重点的に実施しているのが『こども防災キャンプ』です。この『こども防災キャンプ』は平成18年より実施しており、土砂災害警戒区域が指定された市町村の小学校で開催し年間2～3校のペースで現在まで行っています。『こども防災キャンプ』は、「感受性が強く知識の習得が高い児童期（小学生）を対象にした「授業形式による体験型学習」です。

『こども防災キャンプ』を通じて、（1）子供達が自ら自分の命を守る力を身につけてもらう。（2）子供達の防災意識の向上を図る。（3）子供から家庭、家庭から地区へ、さらに地区から地域へと『地域防災力の向上』をつなげて行く。といった大きな狙いがあります。

また開催は、参観日と合わせ、土日のうちの1日を開催とし、保護者や地域住民も巻き込んだ形で実施することで、地域のつながりの強化にもなると考えています。

体験メニューとしては、土砂災害関係の降雨体験や土石流3D映像体験にとどまらず地震体験、消火訓練、津波学習、救急訓練、気象学習など多種多様となっており、まさに『総合的な防災体験』が出来る場となっています。

今年3月に発生した東日本大震災でもハード対策の限界、津波から逃れるために高台に避難するなどのソフト対策の重要性等が改めてクローズアップされています。

こういったことを踏まえ、高知県としては、今後も積極的に地域へ向いて「地域防災力の向上」に努めていきたいと考えています。

地域防災力の向上で目指す災害に強いまちづくり



南国市長 橋詰 壽人

この場をお借りしまして、東日本大震災で被災された方々に、心からのお見舞いを申し上げますとともに、救助・救援活動等に懸命に取り組んでおられる多くの方により敬意を表します。

南国市は、高知市の東隣に位置し空の玄関、高知龍馬空港と高知自動車道南国I.C.を有する広域交流拠点都市です。地形は北に山間部、南に沿岸部、そして中央には県内トップクラスの穀倉地帯を形成した温暖で自然豊かな土地柄です。

自然の恵みを受ける反面、風水害や地震など自然の猛威にも遭遇してきました。特に山間部は、市面積の約47%にもなり、1998年高知豪雨の土砂災害で犠牲者が出たことは忘れられない記憶です。市全体の土砂災害危険箇所は389箇所あり、平成20年から土砂災害警戒区域の指定・周知活動も始まっています。

今回の「南国市こども防災キャンプ in 久礼田」の取り組みは、南国市が目指す災害に強いまちづくりの核である自助・共助・公助の一体となった学校・家庭・地域・関係機関が連携しての体験訓練でした。地震・気象・土砂災害などの学習や体験、救急・炊き出し・バケツリレー・灯り作りなどの取り組みを通じて感じたことは、①災害発生前～復旧まで一連事象体験・学習をする。②小学生、保護者、自主防災会、防災関係機関など地域を形成する多くの人が連携する。③自ら考え、命を守る方法を身につける。ことにより、地域防災力の向上に必要な力を培っていくことにつながるものでした。

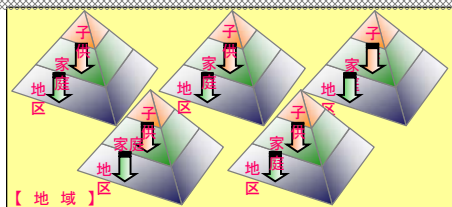
学校からは自然災害の恐ろしさや迅速な避難行動の大切さ、災害時の対応方法など大変役立っていると報告もあり、その後、自発的に計画・運営された地元企業・消防団・消防署の連携による地震速報システムを使った地震・火災避難訓練「こども防災キャンプ」の取り組みが防災意識の醸成に繋がったものと感じております。

今後予想される南海地震対策である小中学校の耐震化は完了しましたが、その他公共施設や住宅の耐震化、防災行政無線の整備、津波避難施設や誘導灯・避難路の整備などのハード対策とともに、自主防災組織の結成や防災学習・訓練など活動支援と連合組織化、防災マップなどのソフト対策を進めながら、市民とともに災害に強いまちづくりを目指して参りたいと考えています。



南国市こども防災キャンプ in 久礼田の様子

防災意識の広がりと「地域防災力の向上」へのイメージ



体験・学習した子供たちの声

- どせきりゅうがほんとにあつたらこわいな。（1年生）
- つなみがきたらできるだけ早くつなみからにげたいとおもいました。（2年生）
- いろいろなものをそろえなきゃいけないと思いました（3年生）
- 本当におこった時に、学んだ事をいかして自分の命を守りたいと思いました。（4年生）
- お父さんやお母さん達が、災害で命を落とさないよう、このことを話そうと思いました。（5年生）
- 一番しなければならぬ準備は、いつも校長先生が言っている心の準備なんだと実感しました。（6年生）

土石流3D体感シアター



灯りづくり

